

大祓(おおはらわす)しついで

大祓は『形代(かたしろ)人の形をした紙』に、日頃私達の生活の中で知らぬ間に接し生じた心身の罪や穢(けがれ)を移し、これを祓(はら)い、海河に流し清める神事で、清浄で明るい生活が営めるように願いを込めて六月と十二月に行われます。

『祓(はら)い』の習俗の起源は古く「イザナギの尊(みこと)がアハギ原で穢(けがれ)を祓(はら)った」等の神話に表れています。六月の大祓(おおはらわす)は古来より『夏越祓(なつこし)』『夏祓(なつはら)い』と称し、夕刻に祓(はら)いを行っていました。

「風そよぐ奈良の小川の夕暮れは襖(あはせ)ぞ夏のころならし」これは平安朝の大祓(おおはらわす)の状況を詠んだものです。

又、新古今集に「水無月の名越(なごし)の祓(はら)いする人は千世(ちよせ)のち延(の)びとこならし」とあるのは、罪穢(つみけがれ)を消滅(しょうめつ)するに「よきことあり、幸福(しあわせ)が得(と)られるように」といいます。

「茶の匂(かほ)に、形代(かたしろ)の匂(かほ)はあらず」と思(おも)かな「これはいつまでもなへ」形代(かたしろ)を流(なが)す様(よう)を詠(よ)んだものであります。

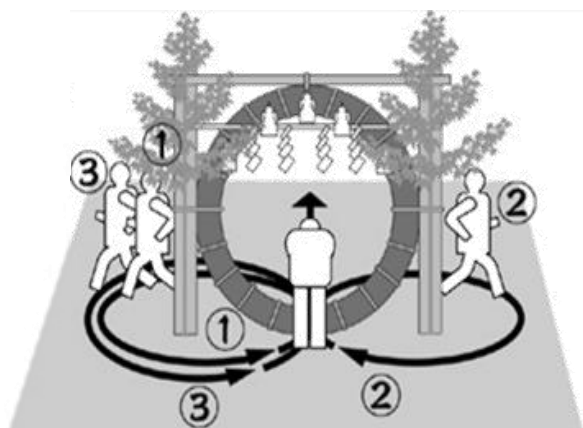
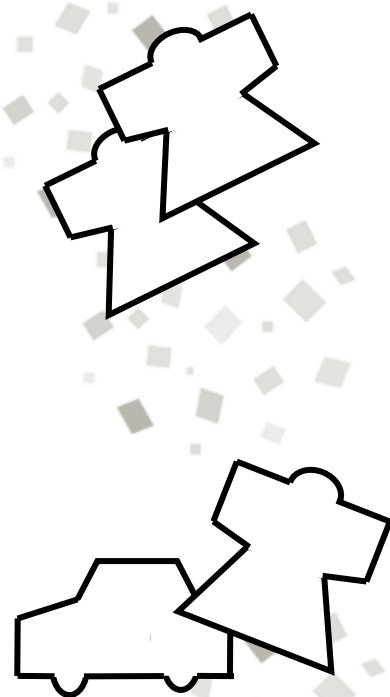
茅の輪(ちのわ)の由来

神代(かみよ)の昔(むかし)、素戔嗚尊(すさのおのみこと)様が神々(かみ)と共に、日本の国土(くに)に住まいする人達(ひと)の平和(へいわ)と産業(さんぎょう)の発展(はつぜん)の為に諸国(しよこく)を視察(しきさつ)し廻(めぐ)っている際(とき)に、ある貧(ひん)しい一軒(いっけん)の家(うち)蘇民(そみん)将来(しよしゆ)と云(い)う人(ひと)で一夜(いちや)の暖(ぬ)かい待遇(たいぐ)を受けた事(こと)を大感(たいかん)感謝(かんしゃ)し、「もし世(よ)の中に悪い病(びょう)気がはやり出(で)したら『茅子(ち)カヤ』をもつて輪(わ)を作り腰(こし)にかければ、必ず(かならず)一切(いっけつ)の悪疫(あくえき)から免(ま)れる事(こと)が出来る」とお教(おし)えにられました。此(こ)の古事(ここと)に習(な)って茅(ち)の輪(わ)の信仰(しんぎやう)が広(ひろ)まり、現在(げんざい)は茅(ち)の輪(わ)を潜(かづ)る事(こと)によって、悪疫(あくえき)を逃(に)れ、種々(しゆしゆ)の罪穢(つみけがれ)が清(きよ)められると云(い)われています。

茅の輪(ちのわ)のやり方

「祓(はら)へ給(たま)へ(はら)えたまへ」
「清(きよ)め給(たま)へ(きよ)めたまへ」
「守(まも)り給(たま)へ(まも)りたまへ」
「幸(さい)へ給(たま)へ(さい)わえたまへ」と唱(な)えながらまず、茅(ち)の輪(わ)の前(まへ)に立(た)ち、

一(いち)礼(れい)してへらします。(一回目)
次に、①左(ひだり)に廻(めぐ)って再(また)び茅(ち)の輪(わ)の前(まへ)に立(た)ち、一(いち)礼(れい)してへらします。(二回目)
次に、②右(みぎ)に廻(めぐ)って再(また)び茅(ち)の輪(わ)の前(まへ)に立(た)ち、一(いち)礼(れい)してへらします。(三回目)
次に、③左(ひだり)に廻(めぐ)って再(また)び茅(ち)の輪(わ)の前(まへ)に立(た)ち、一(いち)礼(れい)してへらします。
一(いち)神前(かみまへ)に進(すす)みお参(まゐ)ります。





大祓祭

- 祭典・神事・形代について -



形代(かたしろ)の仕方

『人形代』に心身の罪穢(つみけがれ)をお移し頂きます。

袋から形代を取り出し、一人一枚ずつ、

①氏名・生年月日を記入し、

②身体を撫(な)で、

③息を三度吹きかけ、

再び袋に収め、

雪ヶ谷八幡神社へお納め下さい。

『車形代』も同様に、

車名・登録番号を記入し、お車をお撫(な)で下さい。



人形代初穂料 (一袋一世帯) 一、〇〇〇円也

車形代初穂料 (一車輛) 一、〇〇〇円也

形代(かたしろ)の納め方

『人形代』『車形代』のお申込みは

〈神社へ直接〉又は〈郵送〉にて

六月二十九日祭典前正午迄に

雪ヶ谷八幡神社へお納め下さい。

(ご家族分、未使用分も二階に袋にお納め下さい。)

『人形代』『車形代』の初穂料(祓料)のお納めは

〈神社へ直接〉又は〈郵送〉又は〈振込〉にて

形代に合わせお納め下さい。

振込先 ゆうちょ銀行
 [記号] 10180 [番号] 80180731
 他金融機関より [店名] 〇一八(ゼロイチハチ)
 [店番] 018 〈普通〉 [口座番号] 8018073
 [加入者名] 八幡神社(ハチマンジンジャ)

令和五年

雪ヶ谷八幡神社での大祓神事

『夏越大祓祭』(なごしのおおほらえ)

六月二十九日(木) 午後四時祭典

※境内祭典はご自由にご参列頂けます。

※本殿祭典は役員のみとなります。

『茅の輪』(かぐつゝ)

六月下旬より 七月上旬迄

※ご自由におくぐり頂けます。

『形代流し神事』(かたしろながし)

形代を海原にて祓い、災難を防ぎ幸福を祈する行事。屋形船に乗船し、東京湾内海上を行います。祭典後は船内で直会(天麩羅・刺身、湾内を遊覧し帰港。どなたでもご参加頂けます。お誘い合わせの上、お申込み下さい。

七月五日(水)

【場所】船宿三河屋(品川区東品川一-一十四)

・品川駅 高輪口徒歩十分

・品川駅 高輪口徒歩十五分

・京急 北品川駅徒歩五分

【集合】午後四時三十分

(現地集合)

【出港】午後五時

【帰港】午後八時頃を予定。

(現地解散)

【会費】一万三千元(祭事費・直会費等)

【×切】定員になり次第×切らせて戴きます。

【申込・お問い合わせ】雪ヶ谷八幡神社迄



『年越大祓祭』(としごしのおおほらえ)

十二月三十日(土) 午後四時祭典

雪ヶ谷八幡神社

大田区東雪谷2-25-1(東急池上線石川台駅徒歩2分)

電話 03-3728-0753 FAX03-3728-0722 ホームページ <https://www.yukigaya.info>